

▼こんなトークを展開しよう



保有ファンド別

お客様へのフォロー&セールスはこう行う

お客様が保有するファンド別に、アフターフォローや追加提案のポイントを解説する。

塩川治明

**CASE1**

米国株式ファンドを保有するお客様  
他の米国株式投信とも比較し  
追加購入の判断をしてみよう

**2** 016年12月に、米国株式市場は史上最高値を更新する上昇相場になった。

11月8日に米国の次期大統領がトランプ氏となった直後は、今後の米国の政策に不透明感を感じ、米ドル安という反応が見られた。

しかし、米国内上下院ともに共和党が過半数の議席を取ってねじれが解消され、トランプ氏の勝利宣言等のコメントも比較的財政拡大など経済に重きを置く内容と受け止めた米国の金融市場はその後、好感を示した。

まずはパフォーマンスが  
良好な理由を説明する

すでに米国株式ファンドを保有しているお客様には、まず最近の運用実績を伝える。そのためには、月次レポートで期間別騰落率をチェックしよう。おそらく直近のパフォーマンスは良いファンドが多いことだろう。その理由をお客様に説明する。

現在のドル円の為替相場は今後の見通しの重要な判断材料の一つ。お客様の中期の為替見通しを確認しよう。日米金利差や政策金利の今後の見直しなども、為替相場の見通しの判断材料になる。

雇用や失業率の今後の推移も米国内の失業者は低位といえるが、これから高位に推移してしまうのであれば、米国内の消費の落ち込みなどが懸念される。GDP成長率は四半期ごとに発表になる。個人消費だけでなく、設備投資や中古住宅販売を含む住宅販売が好調だと、米国のGDP成長率の向上が期待できる。

しかしながら、減税の財源について疑問視する見方もある。インフラ投資や雇用促進についても、共和党の目指す小さな政府とうまく対話ができず、腰折れするリスクが顕在化してくれば、米国株式が下落するシナリオも現実味を帯びてくる。行き過ぎた保護貿易や国防強化の主張も不安視される点である。

米国の今後の経済成長に期待し、米国株式ファンドの追加購入を検討するお客様は多いだろう。そうしたお客様には、保有しているファンドのパフォーマンスを確認してもらおう。

保有ファンドの騰落率だけを見てパフォーマンスの良し悪しを判断するのではなく、他の米国株式ファンドやNYダウ工業平均株価指数やS&P500指数などのインデックスと比較していくことが

重要である。

米国株式ファンドを検討する際に、例えば16年の円高の後、基準価額がどのように推移していったかなどについて、保有ファンド以外のファンドを比較対象とすることにより、お客様の選択肢は広がる。

そのうえで、パフォーマンスの良し悪しとその理由を確認してもらい、今後の米国経済やドル円相場に対する情報提供を通じてお客様の考えをヒアリングし、投資目的が米国株式ファンドに合っていること確認できるなら、追加購入を提案することもできる。

**POINT**

- ・期間別騰落率等からパフォーマンス状況を説明するとともに、今後の判断材料を提供
- ・他の米国株式ファンドやインデックスと比較して、追加購入の検討材料にしよう